

NO	意見の概要	本市の考え方・回答
1	<p>南海トラフ地震では、いつ発生するか分からず、津波高の最大値 14m が 17 分で到達する想定となっており、市民による備蓄を期待するのは大変難しいと思う。</p> <p>市が必要な量を南海トラフ地震や津波による被害を受けない場所に分散備蓄するなど、南海トラフ地震が発生した時に備蓄品が目的通り役目を果たせる様、その時迄維持管理をしっかりと行ってほしい。</p>	<p>宮崎県が想定した南海トラフ地震の被害想定では、本市は、津波到達時間（最短値 津波高 1m）が 17 分、最大津波高が 14m（平均津波高 11m）と想定されています。</p> <p>本市としましては、地震発生後 5 分後に避難開始できるものと想定し、12 分以内に避難できる場所に津波時の指定緊急避難場所の指定や津波避難タワー・避難路の整備などに取組んでいるところです。</p> <p>備蓄につきましては、防災講話などにおきまして、非常持出品の準備や持ち出しやすい場所での保管などについて市民の皆さまに平時の備えを啓発しているところです。</p> <p>一方で、国は 4 日目以降には物資を供給できる体制を取ることとしており、県市は災害発生初期の被災者支援として、現物を備蓄する現物備蓄や協定締結事業所の協力を得て物資を確保する流通備蓄により物資を確保し、被災者の安心安全の確保に努めているところです。今回、被災者の安心安全を確保する取組みを計画的に推進するため、延岡市備蓄基本指針を策定いたしました。</p> <p>市の現物備蓄につきましては、本市で想定されている自然災害においてできる限り被災しない、避難所まで円滑に輸送できる場所に保管することとしておりますので、御理解ください。</p> <p>災害対策におきましては、自助・共助・公助が一体となって取組む必要があります。市内の地区では、非常持出品の持出しが困難である場合に備え、地区で高台の場所に、各自で準備した備蓄品を保管するなどの共助での取組みを行っている地区もありますので、今後の防災講話におきましては、これまでの啓発に加え、共助の取組みなども紹介してまいります。</p>